

地域に根をおろす

——大学の良好な発展への重要な道

中国・四川省教育厅 王 康



四川省は中国南西部にある内陸省であり、
面積は**48**万平方キロメートル、人口**8800**万人である。



● 今現在、全省には全日制大学が92校あり、その中で、中国中央部・委所属校は6校、地方所属校は86校である。また全日制在學生は110万人である。

●92校の中には、「国家985大学」が2校、「国家211大学」が5校、国家示範高等職業学校が6校ある。

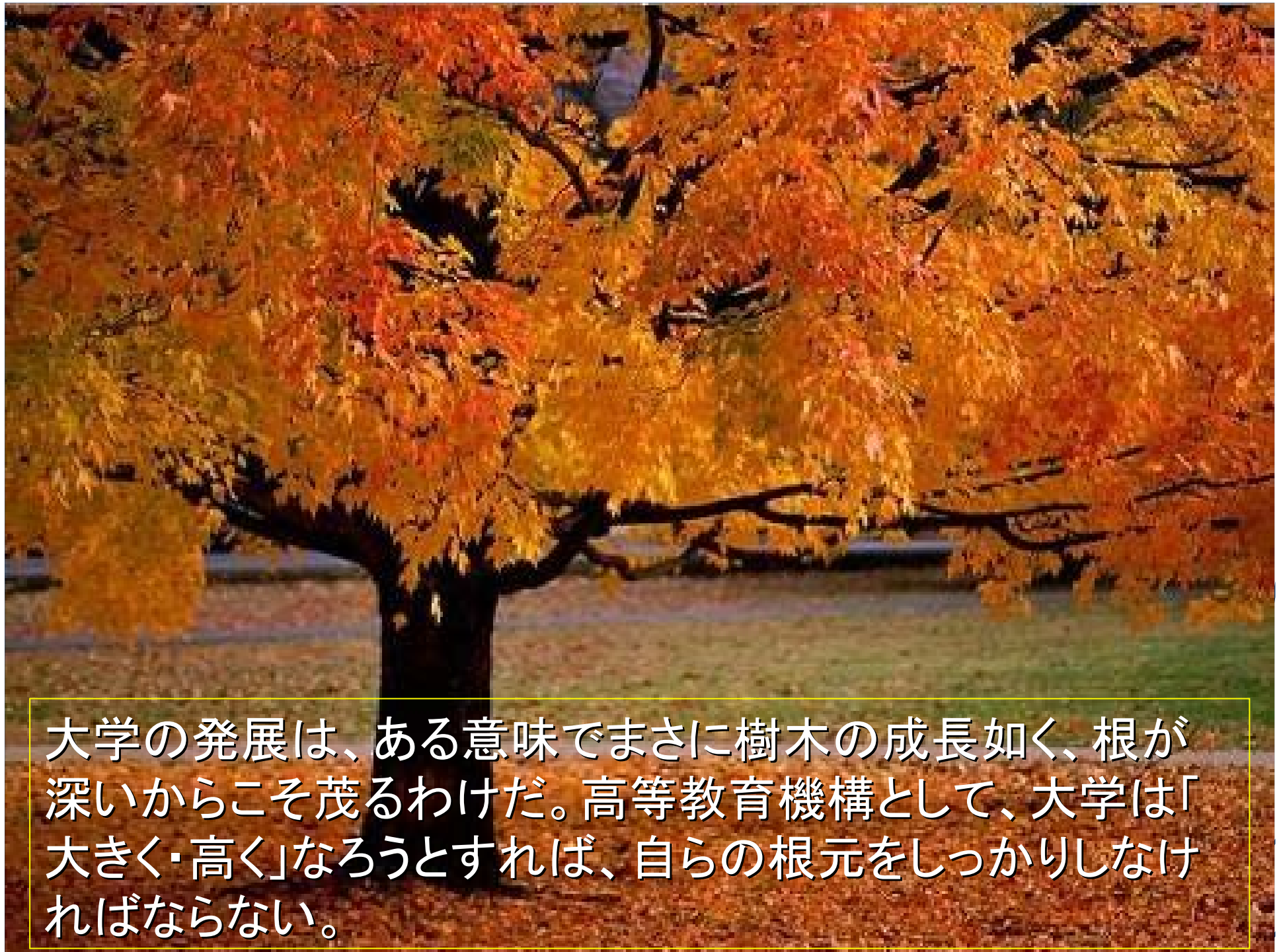
●86校の地方所属校の中には、産業との密接な繋がりのある大学が37校、産業との繋がり不明確でない大学が48校ある。



●今現在、四川省の大学に在学中の外国人留学生数は約5000名。主にアメリカ、日本、韓国、インド、イギリス、フランス等の国からの留学生である。

一、人々に思索と啓発を与えると いう課題

討論の中に出た「**地域に根ざした大学の発展**」という命題は意味深く、人々に様々な思索と啓発を与えることができる。



大学の発展は、ある意味でまさに樹木の成長如く、根が深いからこそ茂るわけだ。高等教育機構として、大学は「大きく・高く」なろうとすれば、自らの根元をしっかりとしなければならぬ。



●浮草が大木になれないのは、深く大地に根ざした膨大な根がないゆえに、豊かな大地より元気よく成長する為の栄養が取れないからである。



- 特色のあるハイレベルな大学を目指し、良好な発展をする
為には、発達した経済社会の豊かな土に根をおろし、地域
内の特定の産業に身を置き、それらの産業との連携を図ら
なければならぬ

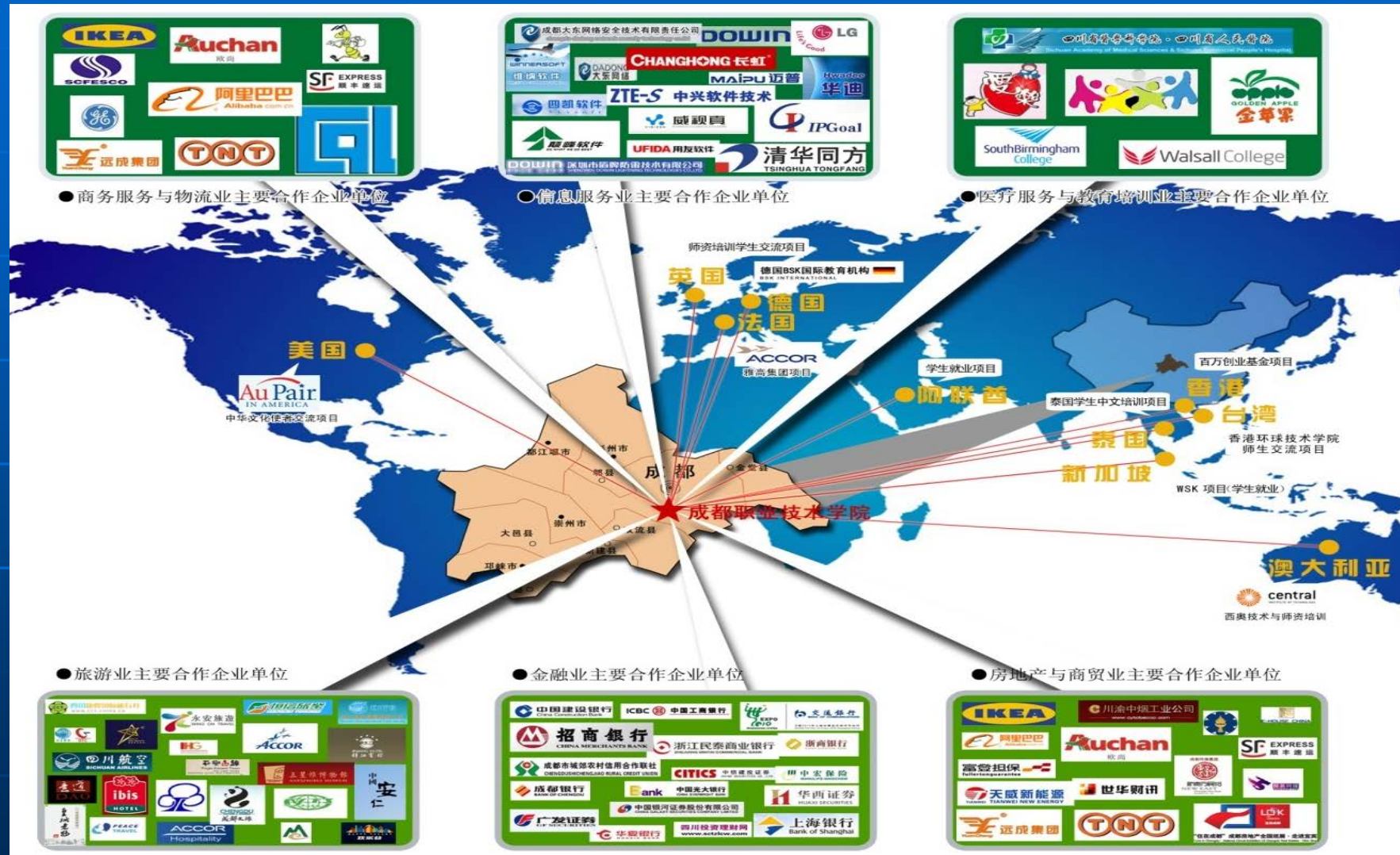
二、「根ざし」に関するいくつか の考え

- 「足を留める」は「根を下ろす」ではない。
- 地域に根を下ろす為の方法は、下記通りである。

1、学校の位置付けの明確化と、人材養成の為の目標設定

- 大学が地域に根を下ろすとは、自らの根元を地域の先進的な産業と企業の中に根ざしていくことである。
- そのうえ、大学自らの人材養成目標がなければならない。即ち、如何なる産業と企業を人材育成の対象にするか。如何なる職業に目を向けるか。それを基に、大学自らの特色豊かな専門と学科設置に力を入れ構築していくことが重要である。

2、校門を出て、社会に根ざそう



● 成都職業技術学院を例に

●中国西部の経済高地——**成都市**に位置するという
地区メリットを十分に利用し、各産業のニーズに応じて
社会貢献をしながら発展を遂げている。

●発展の根を成都市の様々な産業と企業に深く入り
込ませ、成都市の重点産業の建設、発展の需要にし
っかりと応じながら学校自身の発展を図っている。

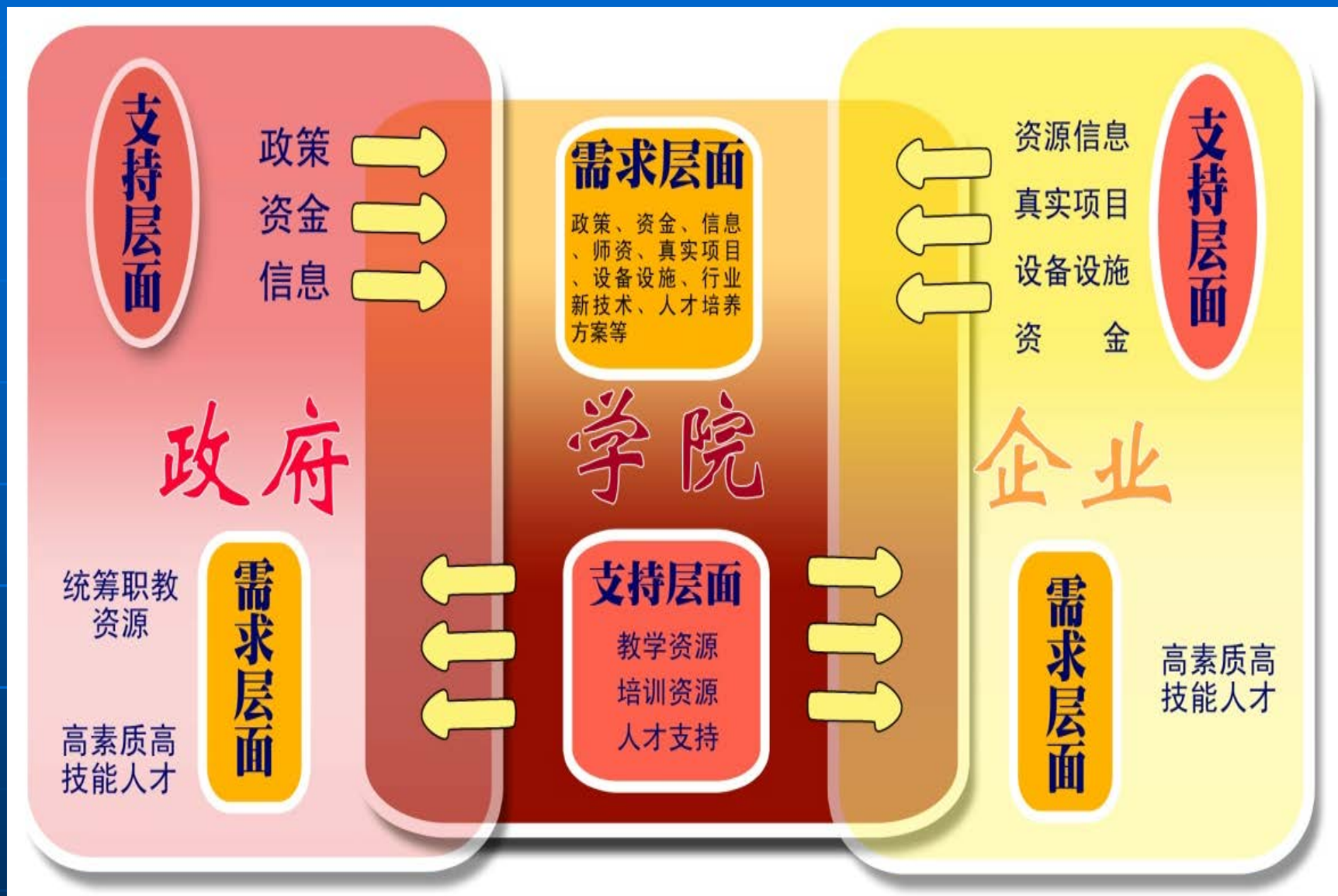
——**高新区、青羊区、錦江区、新津県、邛崃県、都
江堰市などの区・県政府と広く且つ深い繋がりを持っ
ている。**

——ハイテク工業地域、ソフトウェア開発産業地域等との産業地域と広く深い関係の建設。

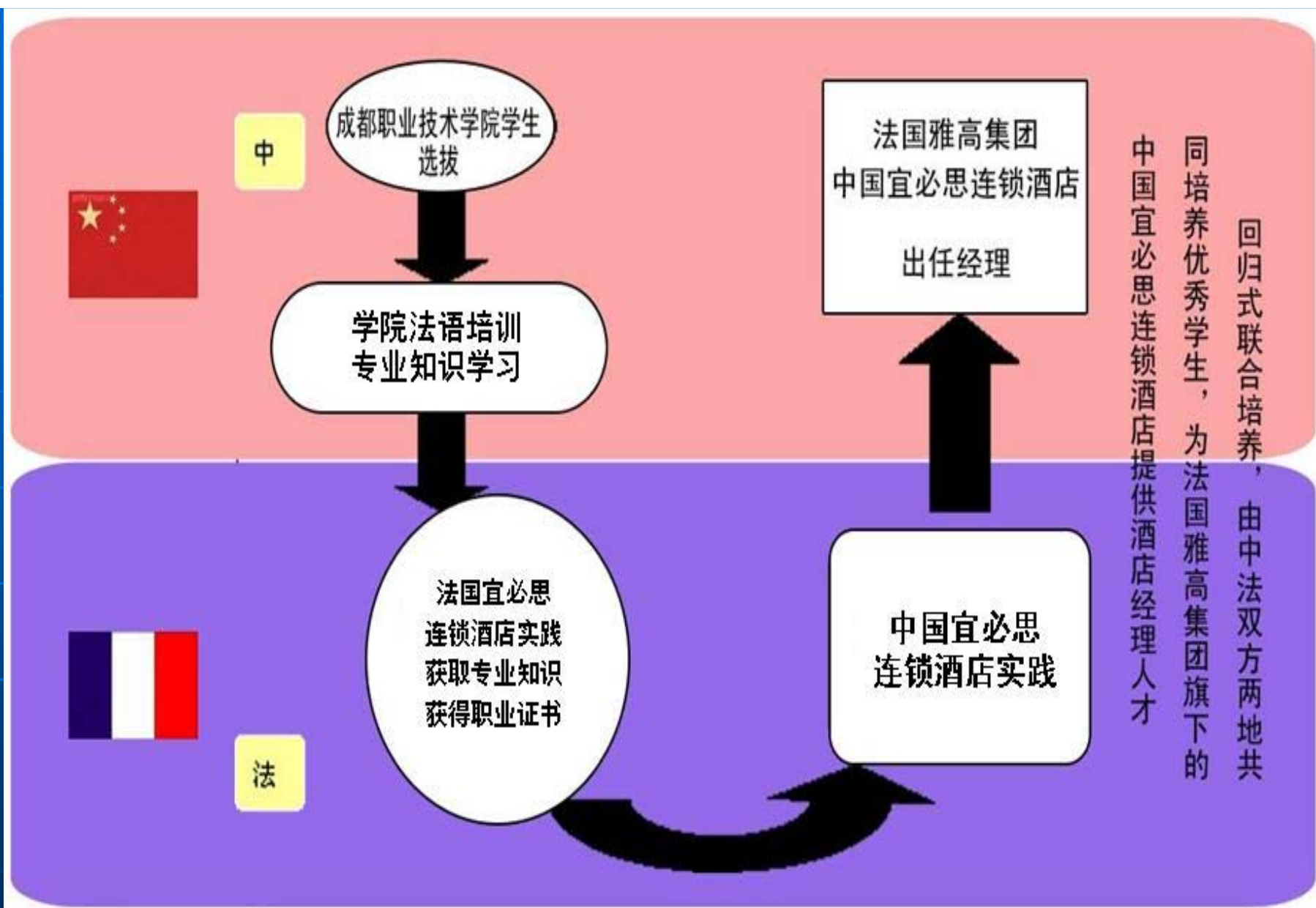
——迈普通信、中興ソフト、フランスAccor等の300社余りの会社と深い関わり。

●マーケティングリサーチ、製品の研究開発、技術改良、製品の製造・販売、人材養成における産業と大学の一体化。

●特に、人材養成の基準、学校・会社の教職員派遣、設備施設の共用、実習基地の構築、研修制度の設立等における、深い協力関係。



成都職業技術學院の「政・企・院」が融合した協力体制

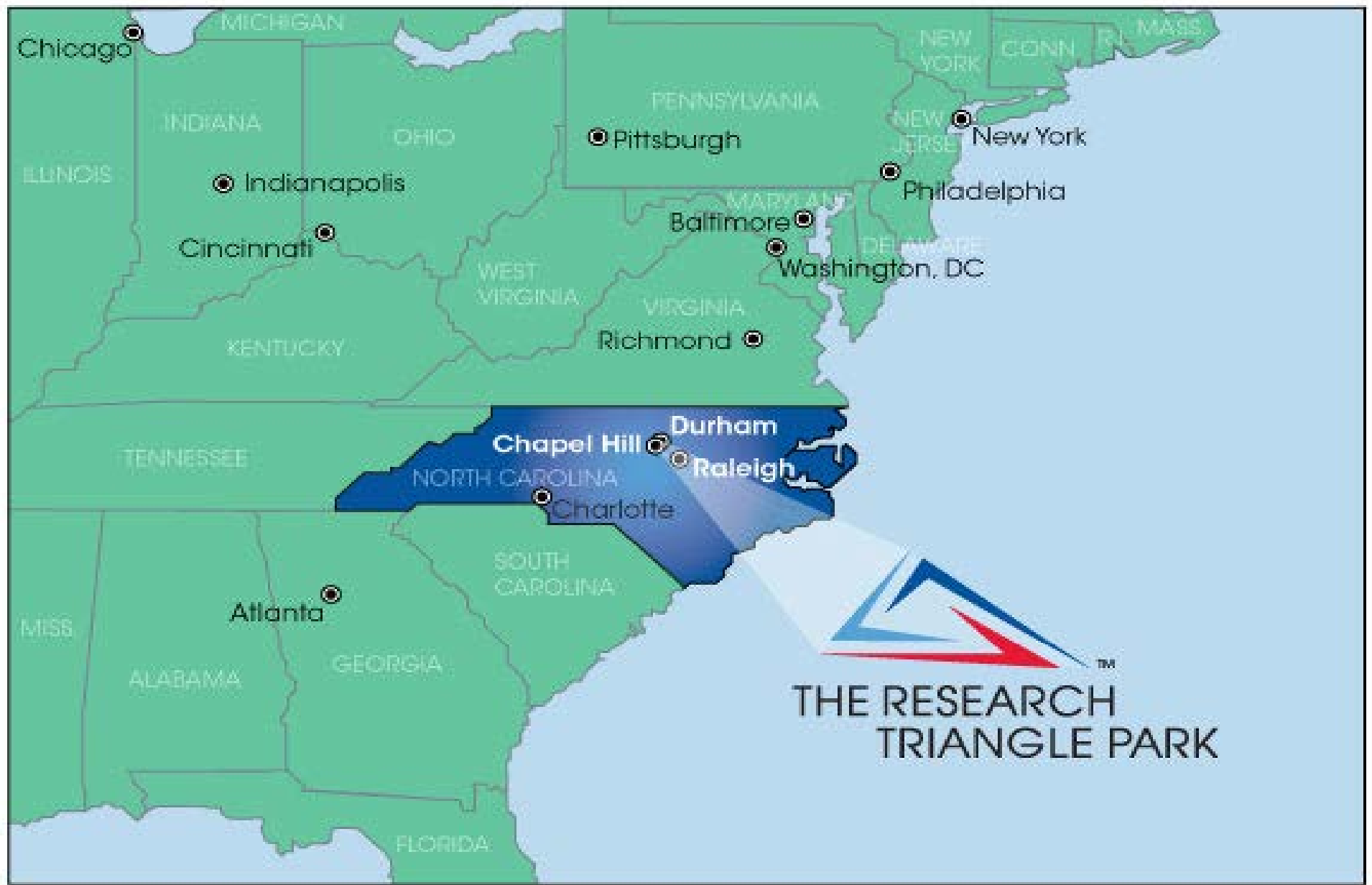


国際ホテル人材育成「U型」工学式複合人材養成モデル

モデル

3、積極的な地域社会建設の取り込み

- 地域経済が発展中にぶつかる問題を念頭に入れ、積極的にその難問について検討し、解決しようとしている。
- 地域の経済発展に貢献しながら、学校自身の実力を向上させる。



— アメリカ、ノースカロライナ州「リサーチ・トライアングル・パーク」を例
に

★前世紀50年代、ノースカロライナ州の大学は、政府の「リサーチ・トライアングル・パーク」開発の情報を得、企業と手を組みその開発計画への積極参加の申請を提出した。

★「リサーチ・トライアングル・パーク」の開発企画に基づき、地元の大学は、公園内に定着しようとする企業の為に人的養成の**学科開設計画**を検討し、策定した。

——計算機科学、情報システム工学、医学技術、生物分子学等が含まれた多領域の新しい学科を設立した。

——大学の学科開設計画の実施

- 「リサーチ・トライアングル・パーク」の建設に重大な人的サポートをした。
- 大学卒業生に新たな就職の機会をもたらした。
- 大学の専門家・教授らが企業の顧問、またはパートナーになる為の、機会と条件を供与した。

——啓発:

★大学としてのいわゆる「大」とは、地域社会の経済発展の動向と需要に基づき、自らの発展の目的を明確にし、学科構造を整え、専門分野を設置し、優秀な教職員チームを作ってはじめてハイレベルな人材養成ができる。

★高等教育を行う大学としての、いわゆる「高」とは、高水準の専門家・教授陣及び、高水準の教学・研究成果があり、地域の発展をサポートでき、社会を進歩させることができるということである。

三、上手に根を築き発展させるには

1、地域の経済発展の為に努力・根を築いている間、感性を研ぎ澄まし、栄養を取り、発展を支える。



——西南科技大学を例に

●1950年～1999年の50年近くの歳月の中で、学校は様々な困難を克服し、奮闘してきたにもかかわらず、発展のスピードは著しくはなかった。

●しかし、その間も学校は地域に根を伸ばし続け、地域の経済発展に貢献をする中、常に感性を研ぎ澄まし、栄養を汲み取っていった。

●そして、ついに2000年9月、綿陽市に「中国科学技術都市」を作ることになった際に、絶好のチャンスがやってきた。

——綿陽市は四川省の中等都市ではあるものの、国家レベルの科学技術研究所・院が18ヶ所所有する。そのうえ、長虹グループ、九洲グループ等50社あまりの大手企業が集まっている。また、中国「両院」院士（アカデミシャン）が26名、並びに各分野の研究員とエンジニア17万人がおり、中国西部の重要な研究・生産と人材基地となっている。

——「中国科学技術都市」建設という絶好の機会をしっかりと掌握する。

——国務院「綿陽科学技術都市建設部協調チーム」というチャンスを十分に活用する。

——副省長を会長とする、36の大手研究所と企業・機構で構成された学校役員会を成立する。

★役員会の関係機構より、高級専門技術者を
招聘し、教員を担当させる。

★関係機構と手を組み、17の専門実験室を
共同構築し、共用する。

★提携強化、資源共用により、学校は迅速に
レベルアップ。それにより、学校、役員会関係機関
は共同発展する。

——現在、西南科技大学の延べ面積273ヘクタール、在学生約2.8万人、教職員2000人余り(学校面積、在学生人数と教職員人数は10年前より3~4倍増となった)

——現在、学校は中国工程院院士1名、vice-senior Title (副幹部) 以上の教員が630人余り。

★今現在、国家重点学科実験室1つ、国家レベルの実験
教学示範センター1つ、国家レベルの特色専門拠点は4つで
ある。

★省レベルの重点学科が11と特色専門課程が8ある。

★国と省レベルの大型研究プロジェクトを300余り受けてい
る。

★国家レベルの進歩賞5つと教学成果賞5つ、省・部レベ
ルの奨励を340項目受賞した。

★四川省の新たな博士学位授与権を持つ大学のひとつと
なっている。

——西南科技大学は地域に根ざすことに成功し、「綿陽科学技術都市」建設に貢献している間、感性を研ぎ澄ます方法を発見し、栄養を取れるようになり、見事な飛翔を遂げたのである。

——僅か10年間で西南科技大学は名も知らぬ学校から、中国西部の名門校へと急速に発展を遂げたのである。

2、大学と地域の共同発展体制の構築

- 大学の発展は、地域の発展と相まって相乗効果を発揮する。

- 需要を志向に、プロジェクトを絆に、革新をパワーにしてウィンウィンを目指す。

●大学と地域の共同発展の体制づくり。

●地域と大学は協力し合い、相互支援、共同発展、ウィンウィンを図る局面を成り立たせるべきである。

——地域政府機関の大学発展

の為の支援:

★大学がよりよく地域建設に参加できるように、大学が要求する情報を提供する。

★大学がよりよい発展環境を作れるよう、政策や資金面でのサポートをする。

★地域内の会社と機構が大学に教学資源を提供するように呼び掛ける。—工場、研究院・所、教学実践基地、実戦経験豊かな人員を含め、大学の教学資源の不足と設備の更新遅れなどの問題解決に援助する。

★地域発展に密接な関係のある学科と、特色のある専門を強化できるように支援することにより、大学のレベルアップを図れると同時に、地域の建設と発展を促進することもできる。

——大学の地域発展への支援:

★地元企業が新たに経済発展できるよう、また、企業が雇用を創出できるように、協力する。

★革新改良によって、税収を増やさせ、政府機関の財政予算創出をバックアップする。

★地域の経済発展、新興産業の建設、企業などの発展のために、人的サポート、技術援助と知的支援を提供する。

3、根ざしを超越し、地域の社会・経済の発展に貢献しながら更なるレベルアップを図る



——四川农业大学为例に

●四川は農業の省として、中国の農業の縮図とも言えよう。

●四川省の農業発展中に現れた諸問題と困難は、全国の農業が解決すべき問題でもある。

●四川農業大学は自らの立命の根本を「三農」（農業、農村、農民）に置いている。

★全省の182町に教学研究基地または農村
専門家拠点を設立。

★農学教授、平均一人あたり13.3ヘクタール
の試験田の所有。

★その他、学校の各学部専門課程所有の各
種校外実習基地154ヶ所所有。

——四川農業大学において

●開設されている専門課程は農業実践から必要性を感じ取った経験によって設立されたものである。

★人材養成のモデルは生産現場の経験によるものである。

●特色のある学科建設は経済発展の動向と需要によるものである。

★研究課題とプロジェクトは田畑に現れた問題によるものである。

学校は「立地」と「成長」の関係に
うまく対処し、地域の経済建設に貢
献する中、感受性を高め、発展とレ
ベルアップを図ったからこそ、非常
に大きな事業発展を遂げることがで
きたわけだと考えられる。

今現在、学校は「三農」に従事するなか、
中国工程院（工学科学アカデミー）院士2
名を養成した。



● **国家技術発明特等賞**——《うるち型ハイブリッド米》

● **国家技術発明一等賞**——《うるち亜種内の品種間雌雄不捨行系及び『岡』・D型ハイブリッド米》、《高収穫小麦、抗錆優良品種『繁六』及び姉妹系》

● **国家自然科学賞二等賞1項目、国家科学技術進歩賞二等賞9項目受賞**

● **学校は約70%の成果を産業化。経済的利益、計600億元ほどを創出。**

★四川農業大学は「三農」への貢献による業績をもって、**1999年**に国家初の「211大学」に選出される。

★現在、学校の牧畜学、獣医学、作物学、森林育成学、園芸学、土壌学等の学科は、全省、更には全国の先端に立っている。

●「地域に根ざした大学の発展」という課題は
継続研究に足る問題だと考えられる。

★より一層の国際交流と協力を強められるこ
とを期待する。

●共に「地域に根ざした大学の発展」の道を
研究できること、そして、それを完成できること
を期している。

★大学の地域経済と社会発展への貢献を絶
えずに高め、その中核的競争力を向上させよう
と考える。

ご清聴

ありがとうございました